

カタヤマガイ

Oncomelania hupensis nosophora (Robson, 1915)

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
—	CR+EN	CR+EN

日本固有亜種

関東以西から九州北部にかけて日本住血吸虫病による被害を起こした中間宿主の淡水貝。このためにこの貝の全国的な撲滅作戦を展開して、現在は千葉県、山梨県、静岡県の狭い地域に野生個体群が存続しているのみである。

Oncomelania hupensis nosophora is the intermediate host of the human blood fluke *Schistosoma japonicum*. A nationwide extermination program has been carried out since 1925; therefore, only small populations of the snail remain at restricted localities in Chiba Prefecture, Yamanashi Prefecture and Shizuoka Prefecture that are free from *Schistosoma* infection.

基礎情報

■**形態** 貝殻は小形（殻長6.0～8.0mm、殻径2.8～3.0mm）、細長い搭状で、各螺層は膨らむためにその縫合は深い。殻表は栗褐色、ほぼ平滑、鈍い光沢がある。臍孔は裂け目状に狭く開く。殻口は卵形、殻口唇はやや肥厚し、黒褐色に縁どられる。蓋は半透明、角質、少旋型。原名亜種 *O. h. hupensis* は中国長江流域に分布（殻表に縦肋を持つ）。

■**分布域** 関東平野から九州北部の水田地帯に分布していたが、1920～60年代に徹底した撲滅作戦により、多くの生息地が消え、現在は千葉県（北部）、山梨県、静岡県に不連続的に分布するのみである。

■**生息環境** 水田地帯の水路の止水域の泥底に生息し、水中や畔に生える草の根本、土塊の隙間などに潜んでいる。

■**生活史** 生活史については一切不明。

分布域および生息地の現状

関東平野（千葉県北部）から九州（北部）に不連続的に分布していたが、千葉県では木更津市牛袋以外では絶滅した可能性が高い。岡山県、広島県、福岡県では近年は記録がなく、絶滅したと判断されている。

存続を脅かす要因

本種を撲滅させる展開を行った結果、各地で激減、または絶滅した。したがって、河川開発・改修（13）、整備（15-2）、農薬汚染（32）などが、生息地域では生存を脅かしている。

保護対策の現状

特になし。

特記事項

日本住血吸虫の中間宿主としての恐れられていた貝。カタヤマガイの和名は広島県福山市神辺町片山地方での風土病・片山病にちなむ。またはこの病気を研究した宮入慶之助からミヤイリガイともいう。

参考文献

- 福田 宏, 2010. ミヤイリガイ (カタヤマガイ). 岡山県版レッドデータブック 2009 動物編, p. 303. 岡山県生活環境部自然環境課, 岡山.
- 小林照幸, 1998. 死の貝. 文芸春秋, 東京, 237pp.
- 黒住耐二, 2011. カタヤマガイ. 千葉県の保護上重要な野生生物 — 千葉県レッドデータブック — 動物編 2011年改訂版, p. 434. 千葉県環境生活部自然保護課, 千葉.
- 増田 修, 2005. カタヤマガイ. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 — レッドデータブック — 6 陸・淡水産貝類, p. 68. 自然環境研究センター, 東京.
- 佐々 学, 1960. 風土病との闘い. 岩波書店, 東京, 207pp.

執筆者：湊 宏 (日本貝類学会)